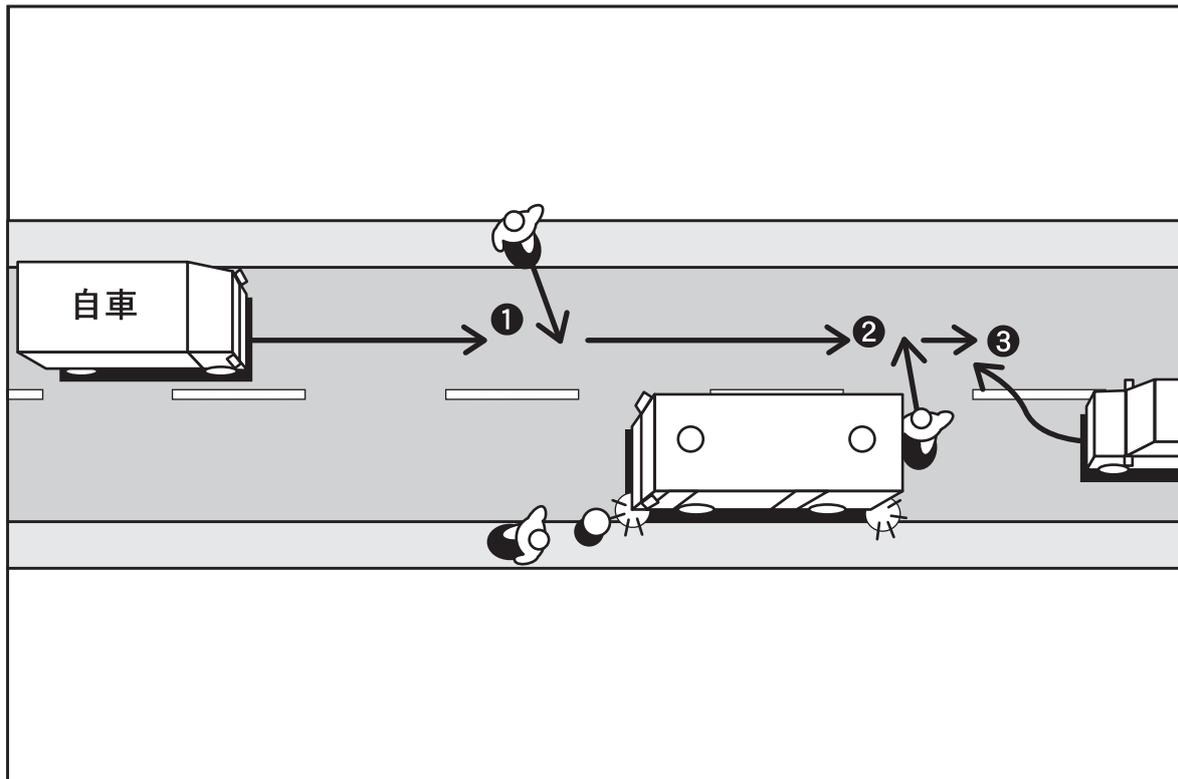


〔トラック1〕バス停のある道路を走行



1．主な危険要因の例

- ① 道路の左側の歩行者が、バスに乗ろうとして道路を横断してくることが予測され、そのまま進行するとはねる危険がある。
- ② バスの後方に歩行者が見える。この歩行者はバスを降りた乗客と考えられるが、この歩行者が道路を横断してくるとはねる危険がある。
- ③ 対向車がバスを追い越して進行してくると衝突する危険がある。

2．安全運転の例

バス停にバスが停車しているときは、バスに乗り込むために強引に道路を横断してくる歩行者も少なくないので、歩行者の動向に十分注意する。

バスを降りた乗客がバスの後ろから道路を横断してきたり、対向車が強引にバスを追い越してくることもあるので、バス停付近の状況によく目を配る。

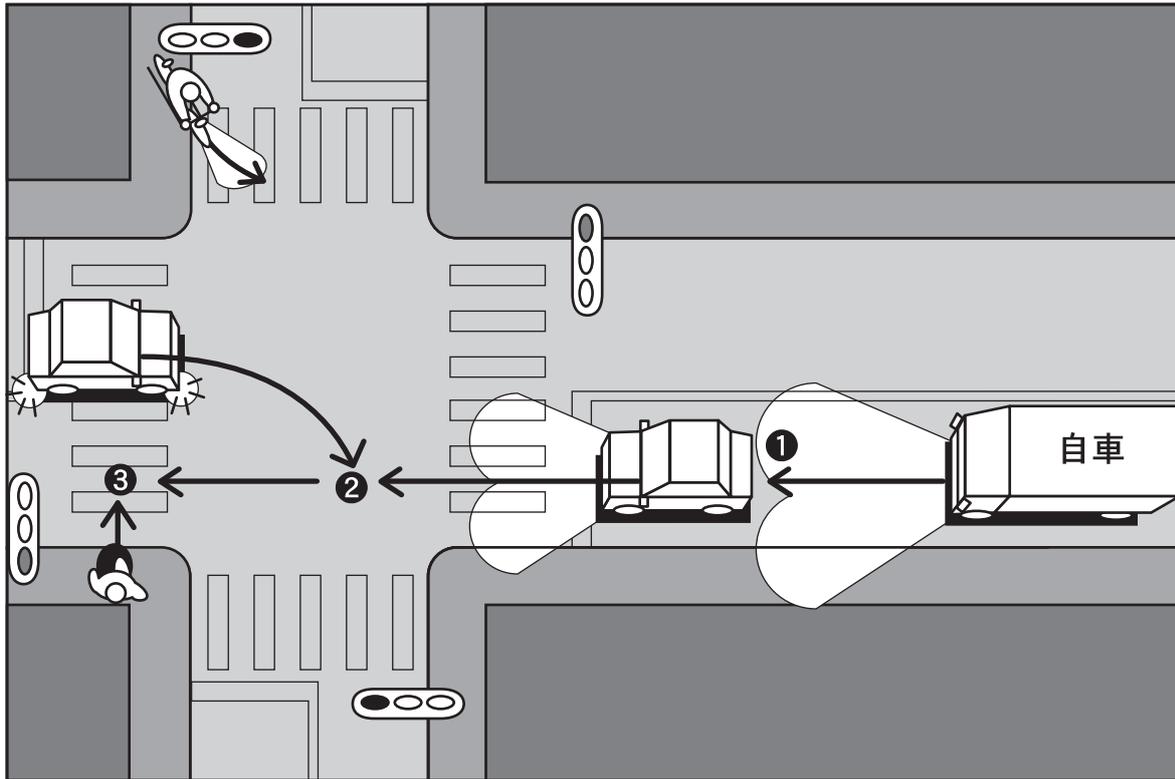
3．乗務員指導のポイント

片側1車線の道路でバス停に接近したときは、特に次の点に留意するよう指導する。

- ・バスが停車しているときは、バスに乗り込もうとする人やバスを降りた人が道路を横断する危険があるので、道路の両側に目を向けて歩行者の動向に注意する。
- ・対向車線側にバスが停車しているときは、対向車の動きにも注意する。
- ・自転車線側にバスが停車しているときは、無理に追い越そうとはせず、バスの発進を待つようにする。

通勤や通学時間帯のバス停付近は、特に危険が多いので慎重に走行するよう指導する。

〔トラック2〕夜間の道路を走行



1．主な危険要因の例

- ① 黄信号で交差点を通過しようとする時、信号が黄色に変わって前車が急停止した場合に追突する危険がある。
- ② 黄信号で交差点を通過しようとする時、右折を開始した対向車と衝突する危険がある。
- ③ 黄信号で交差点を通過しようとする時、横断を始めた歩行者をはねる危険がある。

2．安全運転の例

信号が黄色に変わったときは、無理に交差点を通過しようとはせず、交差点の手前で停止する。

交差点付近では前車が急停止することも多いので、急停止に対応できるように、あらかじめ車間距離を十分にとって走行する。

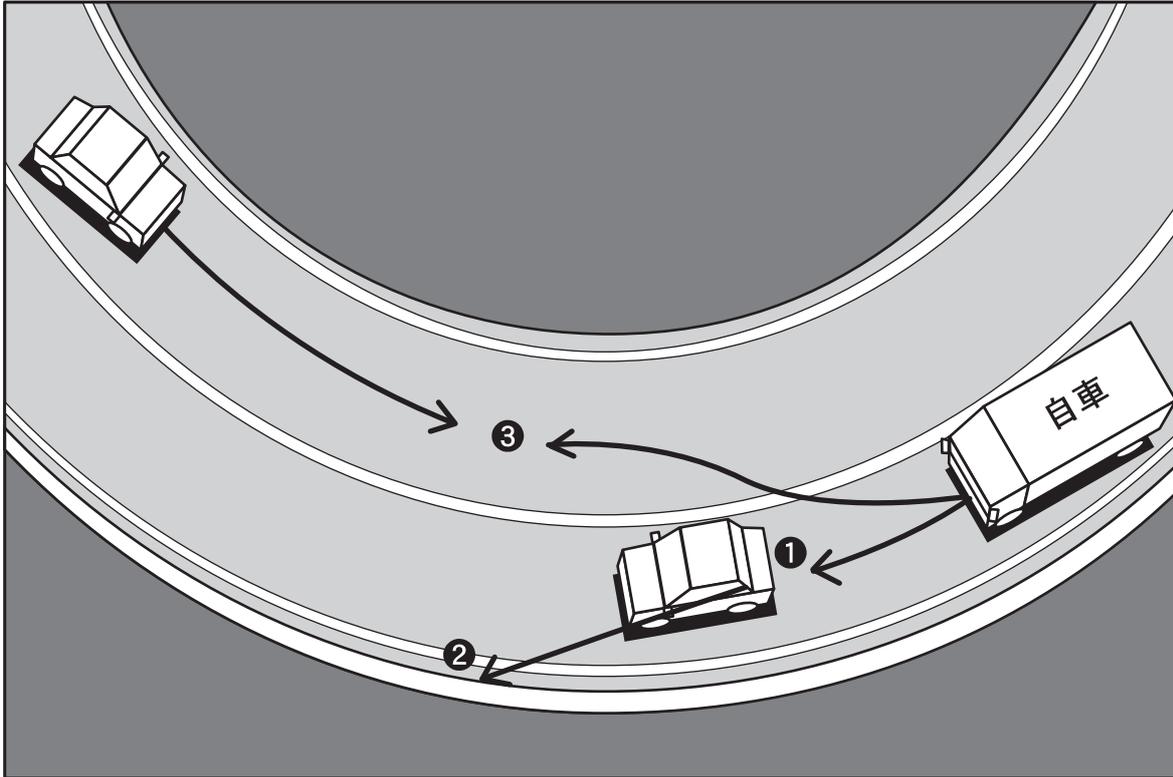
3．乗務員指導のポイント

黄信号は「進め」ではなく、「止まれ」が原則であることを再認識させる。

* 車両等は停止位置をこえて進行してはならない。ただし、黄色の灯火が表示されたときにおいて、当該停止位置に近接しているため安全停止できない場合を除く（道路交通法施行令第2条）。

交差点に接近したときは、特に車間距離を十分にとり、信号や前車の動向に注意しながら走行するよう指導する。

〔トラック3〕 下り坂のカーブを走行



1．主な危険要因の例

- ① 前車がカーブの途中で減速すると追突する危険がある。
- ② スピードを出して走行すると、カーブを曲がりきれずに路外逸脱し、ガードレール等に衝突したり、急ハンドルを切って横転する危険がある。
- ③ センターラインをはみ出すと対向車と衝突する危険がある。

2．安全運転の例

下り坂はスピードが出やすいので、エンジブレーキを活用してスピードを抑えて走行する。

カーブの手前では、スピードを十分に落とす。

カーブの途中でハンドルとブレーキの同時操作をすると、スリップしたり横転する危険性があるので、同時操作をしない。

カーブではセンターラインをはみ出さないように注意する。

3．乗務員指導のポイント

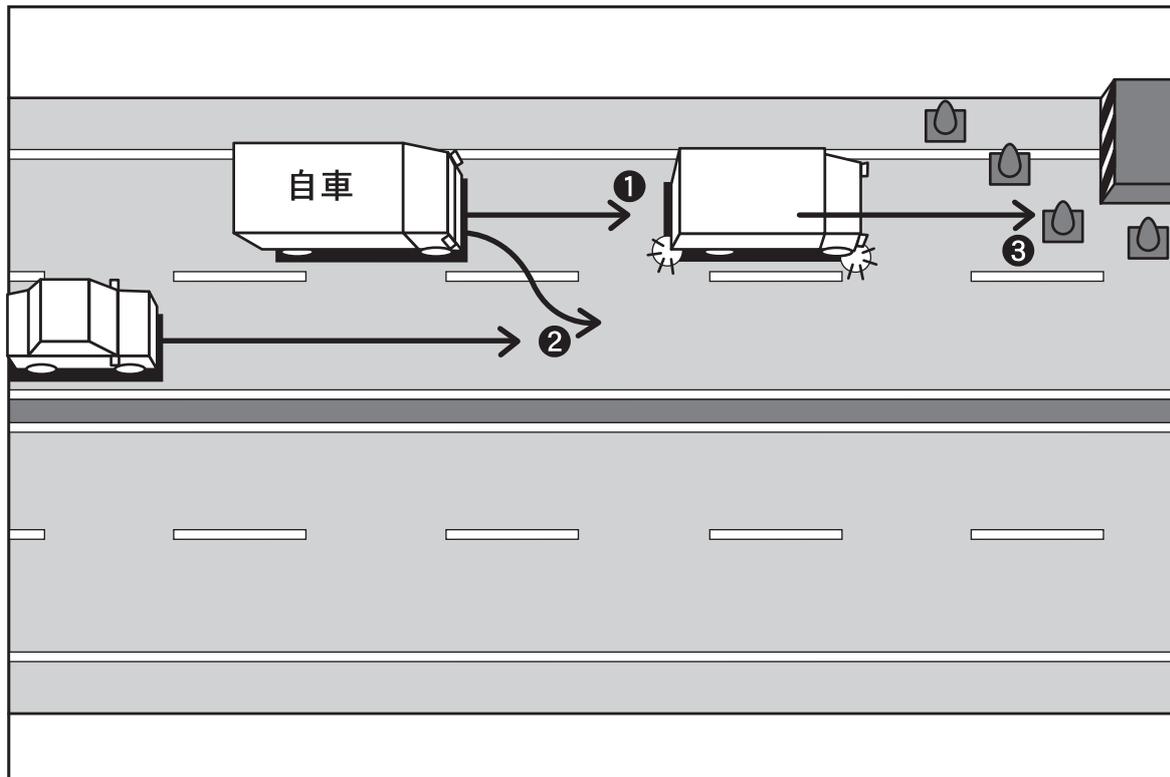
下り坂では、あらかじめシフトダウンをするなどしてエンジブレーキを活用して走行するよう指導する。

* 排気ブレーキが装着されている場合は、排気ブレーキを活用する。

カーブの走行について、次のような点を指導する。

- ・カーブの手前で必ずスピードを落とすとともに、センターラインをはみ出さず、車線を守って走行する。
- ・カーブの途中でブレーキ操作は極力しない。また、ハンドルとブレーキの同時操作をしない。

〔トラック4〕 高速道路の走行



1．主な危険要因の例

- ① 道路工事のために進路変更しようとして減速した前車に気付くのが遅れると追突する危険がある。
- ② 前車との追突を避けるためや、工事現場を避けるために急な進路変更をすると後続車と衝突する危険がある。
- ③ 前車が進路変更をした後で前方の工事現場に気付いた場合は、進路変更をするのが遅れて工事現場に突入する危険がある。

2．安全運転の例

高速道路では電光掲示板等で道路工事の情報をつかむとともに、標識等に注意して工事現場を早めに発見する。

工事現場の直近での急な進路変更はきわめて危険なので、工事現場に近づいたら、早めに進路変更をする。

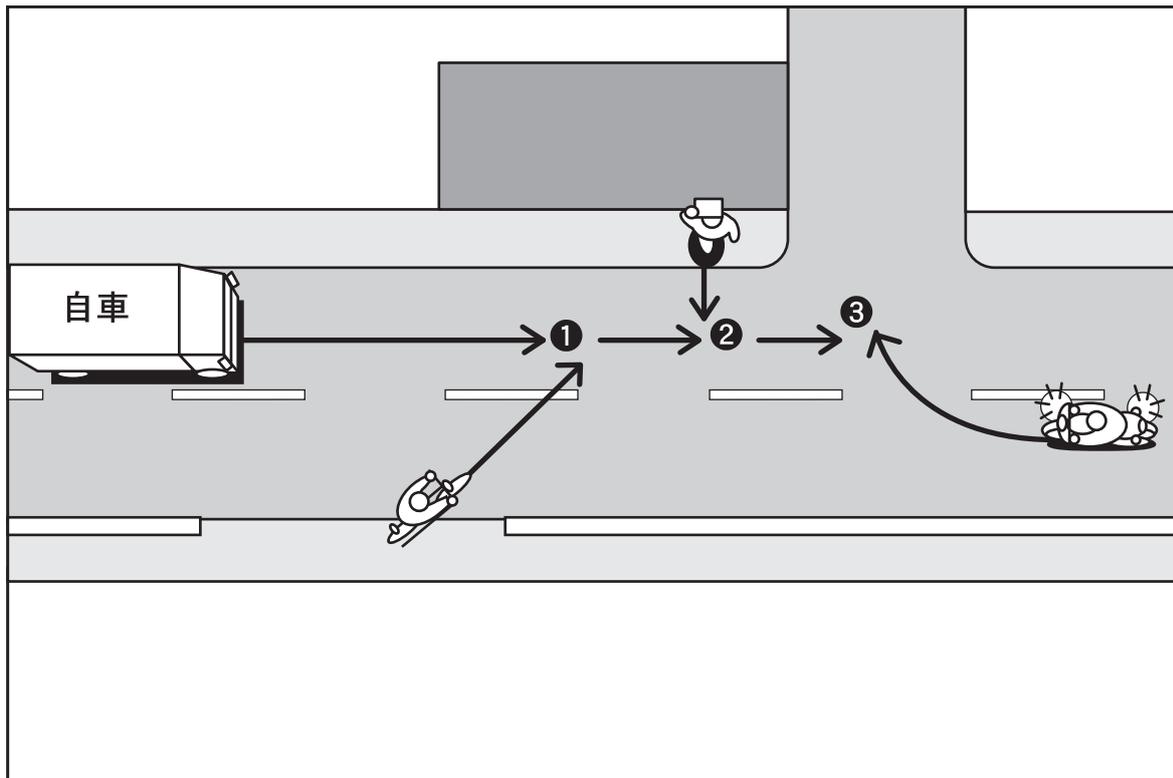
進路変更をするときは、必ず後続車の有無を確認する。

3．乗務員指導のポイント

一定期間の集中工事など、あらかじめ道路工事が行われることがわかっている場合には、点呼時にその旨を伝達し、早めの進路変更などのアドバイスを与える。

道路工事のときには渋滞が予測されるので、それを計算に入れた運行計画を立てるとともに、渋滞に巻き込まれても焦ったり、渋滞を抜けた後で先を急ごうとしてスピードを出し過ぎないようにアドバイスする。

〔トラック5〕雨の降り始めの走行



1．主な危険要因の例

- ① 雨が降り始めたので、道路の右側にいる自転車があわてて道路を横断してくると衝突する危険がある。
- ② 道路の左側にいる歩行者も、雨が降り始めたので早く行こうと道路を横断してくるとはねる危険がある。
- ③ 右の合図を出している二輪車が右折をしてくると衝突する危険がある。

2．安全運転の例

雨の降り始めは傘を持たない歩行者や自転車が、早く行こうとして安全を確認しないまま道路を横断してくることがあるので、歩行者や自転車の動向に十分注意する。

雨の降り始めは路面が滑りやすく停止距離が長くなるので、スピードを落とすとともに車間距離も乾燥した路面より長くとる。

3．乗務員指導のポイント

次のような雨の降り始めの危険性について理解させる。

- ・傘を持たない自転車や歩行者が、いきなり道路を横断するなど危険な行動をとりやすい。
- ・雨の降り始めてからしばらくの間は、路面の塵や泥が路面に浮かんで油をまいたような状態となって滑りやすくなる。
- ・視界が悪くなり危険の発見が遅れやすくなる。

雨の降り始めは上記のような危険があるため、雨が降り始めたらスピードを落とす、歩行者や自転車の動向に注意する、先行車がある場合は車間距離を十分とるなどの指導をする。